

[14] 陽明経病証（前の病）

(1) 基本的に：体の前側に主な症状が出て、ツボが浅く、熱が高く、動きが速い

- ① 邪気が顔や前頭部に衝き上げる上衝を伴う。
- ② 精神症状が出やすい。比較すると、陽性の精神症状が出やすい。（『靈枢』経脈編）
「高きに上がって歌い、衣を棄てて走らんと欲す」「一人戸を閉じ窓を塞いで居る」
- ③ 上衝した邪気を散らし、下げることに、手早い刺鍼が大切。腹足の虚があれば補う。
- ④ 代表例は、更年期障害、疔の虫、熱射病など。不眠は、太陽の病と陽明の病の合病。
- ⑤ 比較的急性症状が多いが、慢性期には腹足の虚を補し、陽明の養生をする

(2) ツボが出やすいところ

①手足の陽明経

1.手：鍼：合谷、八邪1-2間

灸：拳先、骨空、指端、井穴
（親指の大骨空、指端も）

2.足：足三里（恒常的な上衝を下げる）

②前頭部、前頸部～鎖骨：熱を散鍼

③下腹部の関元とその外：虚なら補す

④足の古いツボ：虚なら補す

大腿、脛脛、足首の特に陰経側

⑤その他

1.更年期障害△：腹が虚

下腹横：居膠、五枢・維道

足陰経：蠡溝、中封、照海

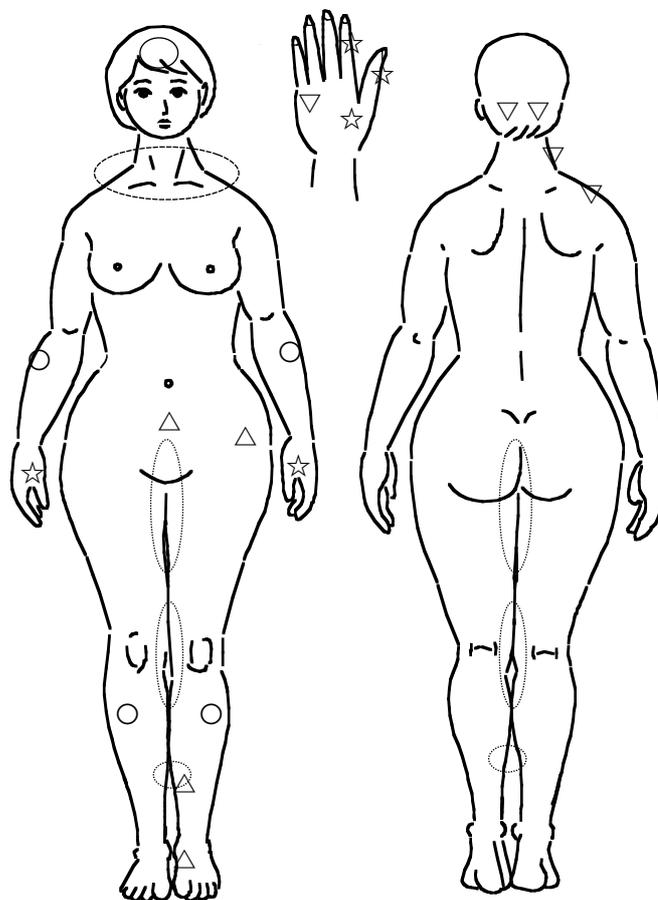
腰痛を伴うときは、そのツボ

不眠を伴うときは、そのツボ

2.不眠▽：太陽との合病

後頭骨下縁：天柱、風池

頸肩や手太陽のツボ



(3)手順

肩胛骨鎖骨から上を中心に触って熱い所は散鍼してから刺鍼

- ① 合谷に引き鍼した後に、ツボを考慮して慢性期の型（+灸・灸頭鍼）
- ② 置鍼+灸・灸頭鍼：骨空(1or2)→うつ伏せ →仰向け →手指端の灸